

農 ポイント

稲作 ポイント

米の収量・品質を安定させるため、
田植え時期の作業ポイントを確認しましょう!



男鹿地区営農センター 三浦 侑士

田植え作業

安定した収量を得るためには、植込み株数・本数が重要となります。

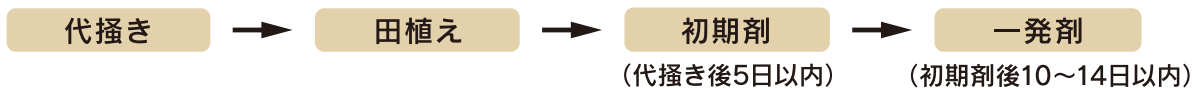
栽植密度は70株/坪、植込み本数は5～6本(400本/坪)を目標として、田植え作業を行いましょう。

また、田植え日は平均気温が14℃以上で晴天が続く日が好ましく、最高気温が15℃以下で強風が吹く日は白枯れ症状が起こりやすくなるので、注意しましょう。

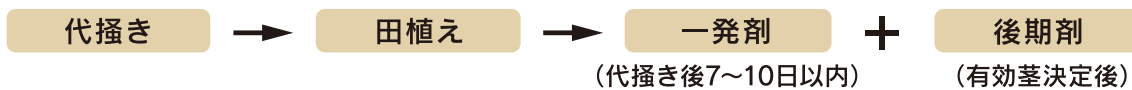
除草剤の効果的な使用方法

水田雑草の発生を抑制するためには、除草剤の効果を十分に発揮させることが重要となります。また、雑草は代掻き後から発生し始めるため、散布適期内で散布できるよう、作業計画を立てましょう。

●初期剤＋一発剤体系処理 ※日数は目安です。



●一発剤のみ処理 ※日数は目安です。



●主な初期・一発除草剤

区分	薬剤名	剤型	対象雑草	使用時期(推奨)
本田初期	メテオ	粒剤	水田一年生雑草 マツバイ・ホタルイ	植代後～移植前7日 移植時・移植直後～ノビエ1葉期
		フロアブル		
一発処理	アットウZ	粒剤	ノビエ ホタルイ・クログワイ等の広葉雑草 イボクサ・クサネム等の特殊雑草	移植直後～ノビエ3葉期
		フロアブル		移植後3日～ノビエ3葉期
	カイリキZ	粒剤	ノビエ オモダカ・ホタルイ等のSU抵抗性雑草 イボクサ・クサネム等の特殊雑草	移植後3日～ノビエ3葉期
		フロアブル		
ジャスタ	粒剤	一年生および多年生雑草 オモダカ・ホタルイ・コナギ等の ALS阻害剤抵抗性雑草 イボクサ・クサネム等の特殊雑草	移植直後～ノビエ3.5葉期	
	フロアブル			

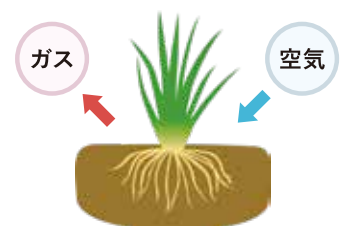
茎数確保のための水管理

●田植え～分けつ期

浅水管理(3～5cm)で水温・地温を高め、分けつを促進させましょう。また、昼夜の温度差が分けつを促進させるため、日中は止水し早朝に補水を行ってください。

●ガス沸き・表層剥離

長期間、水を溜めたままにするとガスや表層剥離が発生し、茎数確保や除草剤の効果が劣ってしまいます。ガス沸きが多い場合は1日程度落水し、ガスを抜き、根を保護しましょう。また、表層剥離が目立つ場合は強制落水をして、水を入れ替えましょう。



生産資材・農産物の盗難などに注意!

肥料・農薬や収穫した農産物などの盗難・悪用・流失を防ぐため、施錠できる屋内で適切に保管しましょう